

- 1 次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、商品に関する勘定は3分法によること。
- a. 岐阜商店に商品 ¥460,000 を売り渡し、代金はさきに受け取っていた内金 ¥100,000 を差し引き、残額は同店振り出しの小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。
- b. 得意先東西商店が倒産し、同店に対する売掛金 ¥130,000 を貸し倒れとして処理した。ただし、貸倒引当金勘定の残高が ¥160,000 ある。
- c. 店舗用に建物 ¥7,000,000 を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。なお、登記料や手数料など ¥350,000 は現金で支払った。
- d. 三重商店に対する買掛金の支払いとして、さきに得意先静岡商店から受け取っていた約束手形 ¥280,000 を裏書譲渡した。
- e. 売買目的で保有している福井商事株式会社の株式20株（1株の帳簿価額 ¥60,000）を1株につき ¥67,000 で売却し、代金は現金で受け取った。
- f. 店主が、店の現金 ¥90,000 を私用のために引き出した。

- 2 新潟商店の下記の取引について、
- (1) 仕訳帳に記入して、総勘定元帳の買掛金勘定に転記しなさい。
- (2) 仕入帳・買掛金元帳に記入して、締め切りなさい。
- ただし、i 商品に関する勘定は3分法によること。
- ii 仕訳帳の小書きは省略する。
- iii 元丁欄には、買掛金勘定に転記するときだけ記入すればよい。

取引

1/月 6日 長野商店から次の商品を仕入れ、代金は掛けとした。

A 品	600個	@¥400	¥240,000
B 品	200個	〃 〃 350	¥ 70,000

7日 長野商店から仕入れた上記商品の一部に品違いがあったので、次のとおり返品した。なお、この代金は買掛金から差し引くことにした。

A 品	20個	@¥400	¥ 8,000
-----	-----	-------	---------

1/8日 石川商店から次の商品を仕入れ、代金のうち ¥60,000 は現金で支払い、残額は掛けとした。

C 品	900個	@¥300	¥270,000
-----	------	-------	----------

2/4日 富山商店に次の商品を売り渡し、代金のうち ¥100,000 は同店振り出しの小切手#7で受け取り、残額は掛けとした。

A 品	500個	@¥580	¥290,000
-----	------	-------	----------

2/28日 石川商店に対する買掛金の一部について、次の小切手#5を振り出して支払った。

AM0005	小切手	新潟 1601 0149-016
支払地	新潟県新潟市東区本所847-1 株式会社 全商銀行新潟支店	
金額	¥150,000	
新潟	上記の金額をこの小切手と引き替えに 持参人へお支払いください	新潟県新潟市中央区白山浦2-68-2 新潟商店
平成○年 1月 28日	振出地 新潟県新潟市	振出人 新潟三郎

3 山梨商店の次の取引を入金伝票・出金伝票・振替伝票のうち、必要な伝票に記入しなさい。ただし、不要な伝票は空白のままにしておくこと。

取引
4月27日 甲府市役所から固定資産税の納税通知書を受け取り、ただちにこの税額 ¥190,000 を現金で納付した。
(伝票番号 No. 30)
〃 日 大月商店に対する売掛金の回収として、同店振り出しの約束手形 #9 ¥370,000 を受け取った。
(伝票番号 No. 42)

4 次の各問いに答えなさい。
(1) 東京商店はA品とB品を販売し、商品有高帳を移動平均法によって記帳している。次の勘定記録と商品有高帳から、(ア)と(イ)の金額を求めなさい。なお、1月4日の売上高は、B品を1個あたり ¥900 で販売したものである。

仕 入		売 上	
1/10 買掛金	68,000	1/14 売掛金	63,000
12 買掛金 (イ)			

商 品 有 高 帳										
(移動平均法)										
		品 名			A 品			単位 個		
平成 〇年	摘 要	受 入			引 渡			残 高		
		数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	数量	単価	金 額
1/1	前月繰越	20	800	16,000				20	800	16,000
1/10	足立商店	80	850	68,000				()	(ア)	()

商 品 有 高 帳										
(移動平均法)										
		品 名			B 品			単位 個		
平成 〇年	摘 要	受 入			引 渡			残 高		
		数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	数量	単価	金 額
1/1	前月繰越	50	620	31,000				50	620	31,000
1/12	荒川商店	100	()	()				150	()	()
1/14	渋谷商店				()	()	44,800	()	()	()

- (2) 次の文の のなかに、適当な金額を記入しなさい。
愛知商店の期首の負債総額は ¥1,610,000 であり、期末の資産総額は ¥3,580,000 負債総額は ¥1,420,000 であった。なお、この期間中の費用総額は ¥8,670,000 当期純利益が ¥590,000 であるとき、収益総額は で、期首の資産総額は である。
- (3) 次の各文の のなかに、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を記入しなさい。
a. すべての取引を発生順に記録する帳簿を仕訳帳といい、勘定ごとの金額の増減を記録・計算し、損益計算書や貸借対照表を作成する資料となる帳簿を総勘定元帳という。これらの帳簿は、すべての取引が記入される重要な帳簿なので という。
b. 簿記では、支払手形や買掛金のように、将来、仕入先などに一定の金額を支払わなければならない義務を という。
1. 資 産 2. 棚 卸 表 3. 主 要 簿 4. 負 債 5. 補 助 簿

5 中部商店（個人企業 決算年/回 12月31日）の総勘定元帳勘定残高と決算整理事項は、次のとおりであった。よって、
(1) 決算整理仕訳を示しなさい。
(2) 貸倒引当金勘定と消耗品費勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
(3) 損益計算書を完成しなさい。

元帳勘定残高					
現 金	¥ 578,000	当 座 預 金	¥1,320,000	売 掛 金	¥2,400,000
貸 倒 引 当 金	13,000	繰 越 商 品	620,000	貸 付 金	800,000
備 品	1,500,000	支 払 手 形	840,000	買 掛 金	1,306,000
資 本 金	4,450,000	売 上	8,520,000	受 取 利 息	18,000
仕 入	5,640,000	給 料	1,530,000	支 払 家 賃	636,000
消 耗 品 費	82,000	雑 費	37,000	現金過不足	4,000
				(借方残高)	

- 決算整理事項
a. 期末商品棚卸高 ¥640,000
b. 貸倒引当金 売掛金残高の3%とする。ただし、差額を計上する方法によること。
c. 備品減価償却高 ¥250,000
取得原価 ¥2,000,000 残存価額は零 (0) 耐用年数は8年とし、定額法により計算し、直接法で記帳している。
定額法による年間の減価償却費 = $\frac{\text{取得原価} - \text{残存価額}}{\text{耐用年数}}$
d. 現金過不足勘定の ¥4,000 は雑損とする。

1

	借方	貸方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

2

(1)

仕 訳 帳

1

[illegible]

帳元定勘総

14

買掛金								14
平成○年	摘要	仕手	借方	平成○年	摘要	仕手	貸方	
				/ /	前期繰越	✓	420,000	

(2) (注意) 仕入帳・買掛金元帳は締め切ること。

仕 入 帳

T

[illegible]

帳 元 金 掛 買

長野商店

1

[illegible]

石川商店

2

平成 〇年		摘要	借方	貸方	借または 貸	残高
/	/	前月繰越		280,000	貸	280,000

試験場校	受験番号
------	------

3 級の 1 得点

3

入金伝票		No.	
平成○年 月 日			
科目	入金先	殿	
摘要	金額		
合計			

出金伝票		No.	
平成○年 月 日			
科目	支払先	殿	
摘要	金額		
合計			

振替伝票				No.			
平成○年 月 日							
勘定科目	借方	勘定科目	貸方				
合計		合計					
摘要							

4

(1)	ア	イ	(2)	ア	イ	(3)	ア	イ
	¥	¥		¥	¥			

5

(1)	借方	貸方
a		
b		
c		
d		

(2) (注意) i 消耗品費勘定の記録は、合計額で示してある。
ii 勘定には、日付・相手科目・金額を記入し、締め切ること。

貸倒引当金		4	
2/19 売掛金	54,000	1/1 前期繰越	67,000

消耗品費		16	
	82,000		

(3) 中部商店 損益計算書 平成○年/月/日から平成○年/2月3/日まで

費用	金額	収益	金額
売上原価		売上高	
給料		()	
()			
()			
支払家賃			
消耗品費			
雑費			
()			
()			

試験場校	受験番号

3級の2得点

総得点

1		借	方	貸	方
	a	前受金	100,000	売上	460,000
		当座預金	360,000		
	b	貸倒引当金	130,000	売掛金	130,000
	c	建物	7,350,000	当座預金	7,000,000
				現金	350,000
	d	買掛金	280,000	受取手形	280,000
	e	現金	1,340,000	有価証券(または売買目的有価証券)	1,200,000
				有価証券売却益	140,000
	f	引出金(または資本金)	90,000	現金	90,000

2 (1)		仕 訳 帳				1
平成 〇年	摘要	元 子	借 方	貸 方		
/ /	前期繰越高	✓	4,930,000	4,930,000		
6	(仕 入)		310,000			
	(買 掛 金)	14		310,000		
7	(買 掛 金)	14	8,000			
	(仕 入)			8,000		
18	(仕 入) 諸 口		270,000			
	(現 金)			60,000		
	(買 掛 金)	14		210,000		
24	諸 口 (売 上)			290,000		
	(現 金)		100,000			
	(売 掛 金)		190,000			
28	(買 掛 金)	14	150,000			
	(当座預金)			150,000		

		総 勘 定 元 帳						14
		買 掛 金						
平成 〇年	摘要	仕 子	借 方	平成 〇年	摘要	仕 子	貸 方	
1 7	仕 入	1	8,000	/ /	前期繰越	✓	420,000	
	当座預金	〃	150,000		6 仕 入	1	310,000	
					18 仕 入	〃	210,000	

(2) (注意) 仕入帳・買掛金元帳は締め切ること。

		仕 入 帳				1
平成 〇年	摘要	内 訳	金 額			
1 6	長野商店 掛け					
	A 品 600個 @¥400	240,000				
	B 品 200〃 〃 〃 350	70,000	310,000			
7	長野商店 掛け戻し					
	A 品 20個 @¥400		8,000			
18	石川商店 現金・掛け					
	C 品 900個 @¥300		270,000			
31	総仕入高		580,000			
〃	仕入戻し高		8,000			
	純仕入高		572,000			

		買 掛 金 元 帳					1
		長 野 商 店					
平成 〇年	摘要	借 方	貸 方	借また貸 は	残 高		
/ /	前月繰越		140,000	貸	140,000		
6	仕 入 れ		310,000	〃	450,000		
7	仕入戻し	8,000		〃	442,000		
31	次月繰越	442,000					
		450,000	450,000				

		石 川 商 店					2
平成 〇年	摘要	借 方	貸 方	借また貸 は	残 高		
/ /	前月繰越		280,000	貸	280,000		
18	仕 入 れ		210,000	〃	490,000		
28	支 払 い	150,000		〃	340,000		
31	次月繰越	340,000					
		490,000	490,000				

3

入金伝票		No. _____	
平成○年 月 日			
科目	入金先	殿	
摘要		金額	
合 計			

出金伝票		No. 30	
平成○年 4 月 27 日			
科目	租 税 公 課 (または固定資産税)	支払先	甲 府 市 役 所 殿
摘要		金額	
固定資産税の納付		1	9 0 0 0 0
合 計		1	9 0 0 0 0

振 替 伝 票										No. 42							
平成○年 4 月 27 日																	
勘 定 科 目			借 方				勘 定 科 目			貸 方							
受 取 手 形			3	7	0	0	0	0	売 掛 金			3	7	0	0	0	0
合 計			3	7	0	0	0	0	合 計			3	7	0	0	0	0
摘要		大月商店から売掛金を約束手形# 9 で回収															

4

(1)	ア	イ	(2)	ア	イ	(3)	ア	イ
	¥ 840	¥ 65,000		¥ 9,260,000	¥ 3,180,000		3	4

5

(1)	借	方	貸	方
a	仕 入	620,000	繰 越 商 品	620,000
	繰 越 商 品	640,000	仕 入	640,000
b	貸 倒 償 却	59,000	貸 倒 引 当 金	59,000
c	減 価 償 却 費	250,000	備 品	250,000
d	雑 損	4,000	現 金 過 不 足	4,000

- (2) (注意) i 消耗品費勘定の記録は、合計額で示してある。
ii 勘定には、日付・相手科目・金額を記入し、締め切ること。

貸倒引当金				4
2/19 売掛金	54,000	1/1 前期繰越	67,000	
12/31 次期繰越	72,000	12/31 貸倒償却	59,000	
	126,000		126,000	

消耗品費				16
	82,000	12/31 損 益	82,000	

- (3) 損 益 計 算 書
中部商店 平成○年/月/日から平成○年/2月3/日まで

費 用	金 額	収 益	金 額
売 上 原 価	5,620,000	売 上 高	8,520,000
給 料	1,530,000	(受 取 利 息)	18,000
(貸 倒 償 却)	59,000		
(減 価 償 却 費)	250,000		
支 払 家 賃	636,000		
消 耗 品 費	82,000		
雑 費	37,000		
(雑 損)	4,000		
(当 期 純 利 益)	320,000		
	8,538,000		8,538,000

(貸倒償却は、貸倒引当金繰入でもよい。)